

作るの面白い！

自分のイメージや考えを「作る」遊びで表現する子どもたち、3歳児・4歳児・5歳児が同じ身近な素材に関わる姿に注目すると、その関わり方の変容や年齢別の特徴を捉えることができます。また、その子どもなりの表現を受け止める友達や保育者など、周囲の人との関わりが「科学する心」の育ちを支えていることが分かります。

子ども（3～5歳児）

豊田大和幼稚園

<幼稚園ができた> 3歳児6月～7月

- ・ Aさんが「学校を作った」と言い、いろいろな箱を並べていた。保育者が、幼稚園のことも聞いてみると、**箱を並び変えて**「できた」と嬉しそうに言った。Bさんが「僕も幼稚園作ったよ」と言う。**いろいろな箱を組み合わせ**手の込んだ幼稚園ができた。
- ・ 保育者が「素敵な幼稚園ができたね。楽しそうだね」と伝えるとこれを聞いていたCさん、Dさんたちも思い思いの幼稚園を作り出した。Dさん「トンネルがある」Cさん「トイレがたくさんあるんだよ」とそれぞれ**自分の思いを言いながら、箱を並べて**幼稚園作りを楽しんでいた。
- ・ 翌日も、Cさんは幼稚園作りを楽しんでいる。今日は、「2階へ行けます」と箱を積み重ねた横に、手で押さえながら階段用の**箱をくっ付けて**いた。
- ・ 保育者は、「じゃ先生が登って行こう」と言って**トイレトペーパーの芯を動かした**。Bさんが「ぼくは園長先生になる」と言って幼稚園を作りだした。Dさんがやってきてそれぞれ、自分のなりたい役になって幼稚園ごっこを始めた。



考察

<ボタンで動くマシンを作ろう> 4歳児6月

- ・ Fさんが**サイズの違う箱を2つの毛糸で繋いで**いた。「これが車で、こっちが動かすマシンだよ」大きい箱を左手で持ち、小さい箱の車を床に置いた。そして引っ張って動かし「ほら」と得意げ。
- ・ Fさんは空き箱製作の経験が少ない。いつも友達の作った物を見たり、友達の作った物で遊んだりしていた。今日は**自分の作りたいものがはっきりとあって**、それを作ったのが車とマシンであった。
- ・ 保育者が「作ったね。どうやってその車を動かしたの?」と聞くと「ボタン」と言う。ハタと気付いて「ボタンがない!」と言って、素材のある棚に行き、ボタンになる物を探した。ペットボトルの蓋をとり、箱の上にあちこちと置く。**置く位置に、かなりこだわり**が見える。どこに置くか決まると**セロハンテープで付け、ボタンの様に押せるかどうか確認**する。
- ・ 「ほら見て。こっちが動くボタン、こっちが止まるボタン」と言って2つのボタンを押しながら動かす。それを、見ていた友達が「ぼくにもやらせて」とやってきた。これを機に次々と友達に見せに行った。友達から「凄い」と言われて嬉しそうな顔をする。



考察

<ペンギンを作ろう> 5歳児6月

- ・ 最初は、空き箱その物の形でペンギンを作っていたGさんは、**図鑑を見て形が違うと思った**のか、羽の形を紙に描いて切って胴体の部分に貼り付けた。図鑑を見ながら口ばし、目、手を紙に描いて付けていった。**手の付け方で悩み**、「ここに付けて、ちょっと**広ろげるようにしたい**」と言う。保育者と二人で、あれこれ手を付ける**位置や角度を一緒に考えた**。「あっ分かった、こうすればいい」と言って、手を少し曲げて貼った。足も厚紙で形を描いて貼った。「できた。ペンギンに魚を食べさせたい」と言って、紙で作った魚を口ばしの中に入れて食べさせていた。
- ・ 「**口が開いていて魚が中に入ると本当に食べたみたいになるね**」とGさんの遊びを見ていたHさんが言った。「そっか」とHさんの言った言葉を受けて、ハサミで口ばしの奥に穴を開けた。それを見て周りの子どもたちが「Gちゃんすごい!」「口ができた」「**本当に食べているみたい**」と褒められて嬉しそうにする。
- ・ ペンギンの胴体の下の部分は塞いでなかったので保育者が聞くと、Gさん「だって、食べた魚が出てこれないから、蓋をしてはだめだよ」と笑う。



考察

身近な素材に関わり、考えたり、試したり、工夫したりなど、作る遊びの中にも「科学する心」の育ちを読み取ることができます。心が動く素材と出会い、3歳児の「見立てる」・4歳児の「イメージの実現を図る」・5歳児の「平面から立体へ挑戦する」子どもたちの姿を保育者が視点をもって捉えることで、育ちと共に、保育者の援助や環境の工夫を明らかにすることに繋がっています。

保育者（造形活動と科学する心）

豊田大和幼稚園

<見立ての世界と「科学する心」の芽生え> 3歳児

素材・教材に関して

- ・ 空き箱は様々な大きさ、厚さ、形状の物があることで、子どもたちの想像力が発揮しやすい。トイレットペーパーの芯や牛乳パックやゼリーやアイスのカップなど様々な材質や形の物が楽しい見立ての世界を広げていった。

人的環境

- ・ 見立ての世界を共に楽しみ、十分に受け止めていく保育者の存在。同じ場で見立てを楽しむ友達。

「科学する心」に繋がる体験

- ・ 子どもたちは、思いのままに箱で作った物を心の中で動かして遊ぶ面白さを味わっている。
- ・ 子どもたちの見立ての世界は、自分の身近なことの再現である。現実と見立てたものを比較し、共通性を見出したり、対象をよく観たりすることに繋がる。見立てを楽しむことで、自分で考える、想像する、表現する、など3歳児の「科学する心」が芽生えていくのではないかと。
- ・ この3歳児の見立て遊びを充分にすることで次のステップである想像を具現化することに繋がっていく。



<イメージの実現を図る> 4歳児

素材・教材に関して

- ・ 自分の作りたいもののイメージを具現化するために、そしてより実物に近付けるためには箱だけでは表現できず、新たな素材や教材が必要になってきた。そこで、様々な素材や教材を準備し選んで使えるようにした。

人的環境

- ・ 作った物の面白さを受け入れ、一緒に楽しんでくれたり、刺激を与えてくれる友達。子どもの思いを受け止め、工夫を認めて援助する保育者。

「科学する心」に繋がる体験

- ・ 自分の作りたいものを作るために、素材や材料をよく見て、実現したいイメージに合ったものを選んでいく。また、実現したいことは、経験したことや目にしたことや今一番興味をもっていることであり、作ったりそれだけで遊んだりすることで追体験を楽しみ、さらに実現したい遊びを広げている。
- ・ その物の仕組みや特質・形状を具現化し、実物に近付けるように工夫して表現する子どもたちは、様々な感覚・感性を使っている。それは「科学する心」に繋がる実物を観察するという子どもの体験から生まれていることであろう。



<平面から立体への挑戦と「科学する心」> 5歳児

素材・教材に関して

- ・ 立体化する時に使った空き箱を解体した紙は、自由に切ったり、納得いくまでふんだんに使ったりして、何度も作り変えることができる、子どもたちにとっては面白みのある素材である。柔らかな紙質から硬めの物まで、目的によって、子どもが自由に選べるように工夫する。

人的環境

- ・ 試行錯誤を乗り越え、工夫を加えていく姿に、刺激やヒントを与えてくれる友達や保育者。

「科学する心」に繋がる体験

- ・ 作ったもので、遊びながら新たに必要な物を作っている。この夢中になって楽しみ、完成していく過程での思考して遊ぶ姿は「科学する心」の育ちに繋がるものと考えている。
- ・ 試行錯誤して、難しいことは、何度も試しながら作り上げている。様々な物に挑み、自分で考え、自分なりに解決していく。そして困難をも乗り越え、満足し達成感をもつなど、子どもたちに「科学する心」が育っていた。

